

沖繩・暗い火花

木下順二作品集Ⅶ

暗い火花

木下順二作品集 VII

沖繩・暗い火花／木下順二作品集Ⅶ
一九六三年一月一五日第一刷発行
一九七四年一月三〇日第五刷発行

定価一〇〇〇円

©著者／木下順二

発行者／西谷能雄

発行所／株式会社未来社

東京都文京区小石川三の七

電話（八二四） 五三二 代表

振替東京八七六五番

暁印刷／今泉誠文社

木下順二作品集 VII

沖繩・暗い火花

目次

暗い火花

5

沖縄 三幕五場

97

解説鼎談

*

*

*

解題

猪野謙二

堀田善衛

木下順二

菅井幸雄

240

199

暗
い
火
花

マリ
利根

(女)
(青年)

広田

ゆみ(その妻)

ユリ子(その娘)

六兵衛

健吉(その息子)

古田

風に乗って高く低く聞えて来る遠いダンスバンドの音楽――

薄あかりの中でおぼろげにわかることは――向って右寄りに一軒の二階家がある

その家の階下は事務室らしく、いくつかの机や椅子

右手に外へ出る戸口がある

二階は正面が板壁であるので内部が見えない。そして正面からは見えない左側面の窓があるらしく、そこから投げられている電燈のあかりで、外の地面は雑草の生えている空き地であるらしいことがわかる。その空き地に二つ三つ小山のような堆積

家の右手に、手前から奥へ向って柵が走っている。柵の外側は道路で、そこに一本の電柱。その高いところにボツンと裸の電球がともっており、その淡い光りが窓越しにぼんやりと室内を照らしている

激しいジープの音が、ダンスバンドの音を打ち消して右手の方から近づいて来、柵の外でぐっと右に曲って（つまり柵沿いに奥の方へ）走り去る

ジープの強いライトがパッパッと柵越しに薙ぐように室内を照らしたその真白な光りの中に、正面奥の壁を突き破ってこちらを睨んでいる虎の首がある。実は壁に掛けてあるその剝製の虎の首は、烈しい光りの断続の中に、生きて動いているもののように見える

しんとした間——微かにダンスバンド——

部屋の左奥にぼんやりと明るい部分のあることがわかる。それは階段の上り口である。二階からの電気が薄く照らしているその部分に、若い女（マリ）が下りて来る。二十四、五。りっぱな体格。哀調を帯びたメロディ（メロディA——それはわれわれに「大陸」を感じさせる）をハミングしている。手さぐりで右手へ行き、パチンとラジオのスイッチをひねり、そのまま立って窓から外の暗やみを見ている

ラジオ

というわけで いわゆる均衡予算の実行というドッジラインの線をますます堅持して行く方針であります 次 ニューヨーク来電によれば 国連政治委員会のメイクビリープ委員は ラジオ放送を通じて 国連総会各国代表が原子力管理に関する妥協案について検討を加えていると言明しました 妥協案の一つと考えられているのは 国際的管理の権限を縮小する一方 国際的監視を強化しようとする案だと伝えられています 一方これに対して上院議員フロード氏は 原子力管理問題の恒久的な解決に関する交渉が済むまで 臨時的な休戦協定を行うという提案をテレビ放送を以て——

二階と電柱の電燈とラジオとが同時にふっと消える。暗黒——

マリ 停電か きつと消えるような気がしてたんだわ あたし

思い出したようにダンスバンドが聞えて来る

マリ 相変らず騒いでるのね 場末のインチキキャバレー (壁沿いに今下りて来た階段の

方へ戻る気配) あっ! なんだきみか びっくりしたわ 暗やみにぬうつと首を突き出

してるんだもん 乾いた毛ねえ おとなしいのねえ あんた 「虎よ虎よら

んらんと よるの森の深みに燃えて」 ちつとも光らないじゃないの あんたの眼

ねえ ウォーッて吠えてみない? どうしてじいっとしてるの? いらいらしてき

ちゃうなああたし あんたがそうやってじいっとしてると ぬけ出してきなさいよ

とびおりてきなさいよ 今によるよ この事務所の中にはだあれもないのよ 向

うの工場のあの広い鋳物場もがらあんとして人氣ひとけはないのよ 外の空き地にも夜露に濡

れて冷え切った鉄屑の山があるだけよ この六百坪の構内には人っ子ひとりいないのよ

あんたがどんなに跳んではねて吠えて廻っても大丈夫なのよ

再び激しいジープの音が急に右手から近づいて来てバンドの音を消してしまふ。そしてパッ
パッと部屋内を薙ぐ強烈な白光の中に、生きて動いているような虎の首

マリ あっ あっ 耳を動かしたわね 今 ギロツと睨んだわね 牙をむいたわね

吠えなさいよ！ ウォーッて吠えなさいよ！ とび下りてきなさいよそこから！
よう！ よう！ (激しく)

白光はたちまち去り、ジープの音が遠ざかる

暗黒と静寂——

しのびこんで来るような遠いダンスバンド——

マリ (やがて、つぶやくように) どうしたの？ あんたはやっぱり動かないのね 五丈

も十丈も跳びはねるすばらしい力をじいっとからだの内にしまいこんだまんま黙ってるの
ね こうやってあんたのひたいにじいっと耳を押しつけると 深いところから ドク
ンドクンって血の流れる音が聞えてくるわ ね？ ドクンドクンって ほら
ね？ ドクンドクンって

暗黒の中に、鼓動のようなリズムを持った低いドラムの音が響き始める
遠いダンスバンドのメロディが、いつかメロディA (さっきマリがハミングしていた) に変

っている

マリ (つぶやくように) これはあんたの心臓の音? それともあたしの心臓の音? そ

れとも ああ 何だか気が遠くなってくるようだわ この音を聞いてると

ドラムのリズムがだんだんと切迫して来る

ある白い微光が次第に室内に充滿して来る。その微光の中では一切のものが「影」を失う。
机も椅子も、一切が何かわからないただ「物」として眼に映ずる

切迫して来るドラムの音

突然激しい電話のベルが右手手前の卓上で――

ドラムの音とメロディAは瞬間に消え、そして急速にもとの暗やみが――

マリの声 (溶暗して行く中で叫ぶ) ああっ! (分って) ああ 電話か (物にぶつかりながら行こ

うとする気配)

誰かが暗やみでガチャリと受話器を取る

マリ あっ だれ？

男 (激しく) もしもし もしもし どうなった？ 話し

マリ (安心して) ああ あんた

男 (マリには答えず) 何とかなりそう？ え？ え？ こっち利根 え？ あんたおじさん

じゃ—— 広田さんじゃないんですか？ え？ え？ いや違う 違う違う！ 違います！

(ガチャンと切る)

マリ ああびつくりした いつからいたの？ そんなところに

利根 (無言)

マリ 人が悪いなあ 黙ってそんな 何してたのよ？

利根 (無言)

マリ 電話なら取り次いだげるのにさ あつちでフィアンセとおしゃべりしてりゃいい

のに ほんとに人が悪いわ なに押し黙ってんのよ？ 知らないわよ こんな

暗やみに坐りこんでてユリ子さんに疑ぐられたって

利根 (黙ってカチッとライターをつけ、電話のダイヤルを廻す——二十七、八。ソフトをかぶりオー

ヴを着ている。いらいらと) もしもし春の家？ まだきてない？ うちの大將 僕利根

さっき電話した広田鑄造所の利根 え？ うちの所長がね 広田っておやじさん

がね 今晩きみんどこにお客連れて ううん税務署じゃない佐久間製作所の例の人さ

え？ きみ誰なんだ一体 かみさん出してくれよ ちっとも分らないじゃないか話

マ 六兵衛さん そんなに悪いの？ 何だっていうの？ お医者さん
 利 根 (無言)
 マ リ (やがて) 佐久間製作所って あの古田さんでしょう？ いやな奴 ほんとにあ
 根 んないやらしい男ってありやしないわ
 (ずけりと) きみにゃいやらしくたつてこつちにや大事なお客さんなんだ

しが え？ きてる？ ばかだなあじやすぐ(半ば独り言のように) きたらすぐかけるよ
 うにつて頼んどいたじゃないか あおじさん？ どうなった？ 話し え？ だ
 め？ ふうん いつもの手だなあ ぬらりくらり そいで全然どうにもならないっ
 ていうの？ ふうん じゃ脈はあるんだね まったくここで逃げられちゃったらもう
 処置ないからねえ ほんとに済みません 何とかうまくやってよ ね おれ 必要
 だったらいつでも行きますよ ううん 待ってる ここで さっきから電話にへばりつ
 いて待ってたんだ どうなったかと思つて え？ 六兵衛さん？ さっき見舞いに行
 つてきた えらくからだに抵抗力が不在なんだって 樂觀できないっていつてたよ医者
 が どうもあつちこつちも実際弱つちやつたなあ 弱り目に祟り目だよ え？ う
 ふん うん うん じゃとにかくここで待ってるからね はい じゃ(切る)

間——遠いダンスバンド

マリ (やがて) あんまり考えこみ過ぎるんだわ あんたは

利根 何を?

マリ 何をもって あんまり何でも責任しよいこんで悩み過ぎるんだわ だからそんなに

いらつくのよ

利根 だって全部がおれの責任じゃないか おれのおかげで全部がボシヤリかけてるん

じゃないか

マリ 六兵衛さんの病氣のことまで あんなに自分一人の責任みたいに悩むのはばかだって

きのうもそういつてたわ パパが

利根 パパはやめろっていつてるじゃないか どうして所長さんっていわないんだ

マリ あらァ 冗談よ お店でマスターのことみんながパパパパって

利根 うちァ工場なんだ キャバレーの習慣を工場に持ち越すなァやめにしたまえ

マリ だって そんなに一々すぐ変えろったって——(まじめに) はい いけないな す

ぐ減らず口たたく癖がついちやってて でもほんとよ あんまり考えこまない方が

いいわ

利根 そんなのんきなこっちゃないんだ 今夜の古田の出よう一つじゃうちがボシヤっち

やうかどうかって瀬戸際じゃないか(間——)早く寝ちゃったらどうなんだ 上にあがって

マリ あらァ だって戸締りができないわ あんたがここにいたら

利根 (無言)